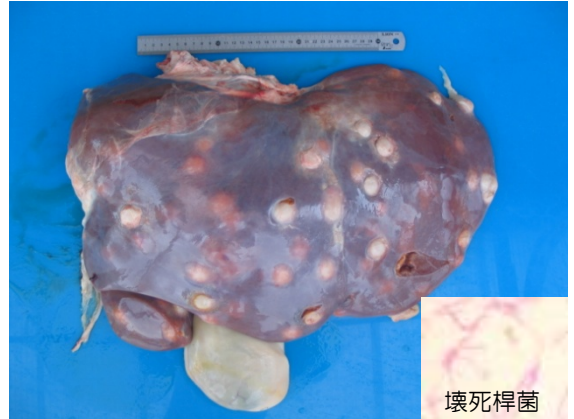


とちく検査で発見される病気 牛編 No1 肝膿瘍

☆ どんな病気なの？

文字どおり肝臓に膿瘍(膿が貯留した袋)ができる病気です。肝膿瘍は細菌感染で起こりますが、その原因菌は主として壊死桿菌(*Fusobacterium necrophorum*)であり、他にも *Arcanobacterium pyogenes*、ブドウ球菌、連鎖球菌、緑膿菌、大腸菌などの感染にもよります。



☆ 肝膿瘍発生のメカニズム

肝膿瘍は肥育牛に発生しやすい病気とされています。育成期や肥育期の牛で濃厚飼料多給・粗飼料不足状態が起きますと、ルーメン(第一胃)の反芻運動の低下、乳酸アシドーシスや常在細菌叢の変動などが起こり、これらの原因が複合してルーメンパラケラトシス(角化不全)や第一胃炎がおこります。その結果ルーメンの粘膜バリアの障害により細菌が移行し、肝臓に膿瘍を形成すると考えられています。またこの病気は同一出荷者に多発する傾向があるので、飼料を含めた飼養状況も関連していると考えられます。

☆ とちく検査で肝膿瘍が発生すると...

皆さんも擦り傷などで膿んだ経験があると思いますが、膿の臭いは決して良いものではありませんね。肝膿瘍はかなり大型のものがあるので、そのような肝臓が近付いたときには遠くからでもにおいで膿瘍があるとわかります。鼻の奥に臭いが残り暫く、くさい思いをすることもしばしばあります。肝膿瘍はさらに周囲の肺や横隔膜(焼き肉店ではハラミの名称で知られています)に波及することもしばしばあります。



☆ 肝膿瘍の病理組織所見。

肝膿瘍では白血球の一種である好中球(矢印)の出現が特徴的です。好中球は内部に2~3個の分葉核を持つのが特徴的です。また膿を取り囲むような線維組織も認められます。

